2020年 8月 16日発行

みらい すくすく 通信 462号

この通信に掲載の野菜のお届け日

2020年 8月31日～9月 4日

いつも有機野菜をお買い上げありがとうございます。
毎週、旬の情報をお伝えします。

有機農産のお届け便 ゆうきの実

新規就農物語

②安平、RooT Farm（ルートファーム）＜後編＞ ～ポスト資本主義時代の遺伝子たち

農業人口が年々減少していく中、新規就農者全体における有機農家数は2～3割。この先、有機野菜を潤沢にとは言わずとも入手できるかを憂うとき、新規の有機農家は言ってみれば宝です。就農研修の受入をする安平、無何有の郷（むかうのさと）農園、小路組合長のもとへ、2011年、2014年、2017年と訪れ、新規就農を果たした3人のストーリーを、それぞれの野菜へのこだわりと合わせてシリーズで紹介します。

◀ 1 町（≒100m 四方）広がるカボチャ畑。7.5 町のうち 5 町を大豆、残りをハウスに

▼ ロッソナポリタンの露地栽培。アーチが楽しみ

▼ 星空ロッソは安平の道の駅で購入できます

▼ 札幌ナンバン。珍しい野菜にも挑戦中

新人にして予定をはるかに超える7.5 町（≒270m四方）の圃場を持つことを余儀なくされた新戸部さん。
振り返るとこの時が精神的に一番キツかったそうです。
「今年が５年目で何とか活路を見出せそうなので、今となってはここにして良かったと思います。研修１年目の広い畑で、手作業の経験をさせていただいたことに感謝しています」
付けた屋号は根を意味する RooT Farm。RooT の T の大文字は土の下の根をイメージさせ、足元にある見えないものを大切にして、地域に根差したいという思いを込めました。
有機農協へ出荷中の野菜はピーマン、セニョリータ、モロヘイヤがありますが本人的にはピーマンがイチ押しとのこと。
「ピーマンは収穫と同時に剪定をします。どの枝を残していくかで育ち方が違うので、この対話がまた面白く、僕の性に合っています」
他にも、畑にはオクラ、さくら豆、とっくり芋、ペポカボチャ、白カボチャ、ミニスイカ、ビミタス、札幌ナンバンなど、試験的な意味も込めて少量ながら多品目にトライしています。好評なものはゆうきの実にも登場するかもしれないので楽しみです。
畑の奥に珍しい光景が。ミニトマトは収量を考えるとハウス栽培が一般的ですが、ロッソナポリタンという品種の有機ミニトマトを露地栽培しているのです。しかもわき芽を取らずに省コスト、省労力でアーチ型に伸ばしていくソバージュ（【仏】野性的な）栽培という放任スタイルを採用（わき芽はミニトマトがたくさん種を残そうと茎の根元等から出す芽で、一般的には栄養が散漫になるため適宜取ります）。
「収穫期になると真っ赤なトマトのアーチになるんですよ！これが好きなんです！」まさに少年のように目を輝かせ身振り手振り教えてくれました。
アーチの下には良い影響を与え合うコンパニオンプランツとして緑肥（麦）を植え、害虫も病気も見られません。
ここでのミニトマトは有機加工しジュースにしています。ハウスに遮られず自由に育ったミニトマト。
奥様とともに付けたという名前はその名も「星空ロッソ」。

「人間のユメのチカラ」

人類が創りあげてきた文明や発明。その資本は、貨幣や土地、労働、モノであるという一面は確かにあるでしょう。しかし、世界を変えてきた本当の原動力は、「好き」に端を発し、既存の枠に囚われず、無限に広がっていく人間の「ユメ」のチカラではないでしょうか。
東京へ満員電車で毎日往復４時間揺られていた生活からわずか数年で、人はここまでできるという人間の創造力を、新戸部さんの農場を訪れ目の当たりにしました。
「星空ロッソ」。飲む者の予想を超える創造力に満ちた味が、また次の世代の遺伝子を刺激していくことでしょう。